

「宇仁の朝市」通算100回

加西 地元野菜や果物販売

加西市宇仁地区の「宇仁郷まちづくり協議会」が地元の野菜や果物などを販売する「宇仁の朝市」がこのほど、通算千回を迎えた。毎週土、日曜を中心に地区内などで出店。同協議会「宇仁の朝市」部会長の繁田進作さん(71)は「こんなに長く続くとは思わなかった。おいしかった、と喜んでもらえるのがうれしい」と頬を緩める。

(森 信弘)

温泉施設、イベント、都市部でも

地元の農産物を知ってもらい、地域をPRしようと2009年7月、同市都染町にあった温泉施設「根日女の湯」(13年10月に閉館)で始めた。現在は土曜に加東市下

利用客喜ぶのが
スタッフの励み

滝野の温泉施設「滝野温泉ぽかぽ」ぽかぽ、日曜は加西市青野町の岡田電気商会近くで、それぞれ午前8時から出店している。

ほかに「加西サイサイまつり」や「北条の宿はくらんかい」などのイベントでも出店。11年7月から約6年間は、都市住民との交流の一環で芦屋市翠ヶ丘町でも年6回、開いてきた。

登録している生産者は同地区から周辺にも広がり、当初の約20人から約50人に増えた。今の季節はダイコンやハクサイ、ニンジンなど、夏にはスイカやスイートコーンが並ぶ。

「ぽかぽ」まで毎回来るといいう主婦黒崎良子さん(75)は「加西市国正町は「安くて新鮮だし、ほんわかと温かい雰囲気なもの」と話す。

スタッフは毎回、70歳前後の男性6人のほか、レジ担当の女性25人のうち2人が売り場に立つ。男性陣は前日に品物のシール貼りもする。利用客に喜んでもらえることがスタッフの励みになっているといい、繁田さんは「今後も続けるため、後継者をつくっていかねば」と話している。



多彩な品を販売する宇仁郷まちづくり協議会のスタッフ。加東市下滝野、滝野温泉ぽかぽ